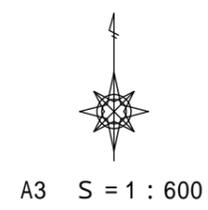
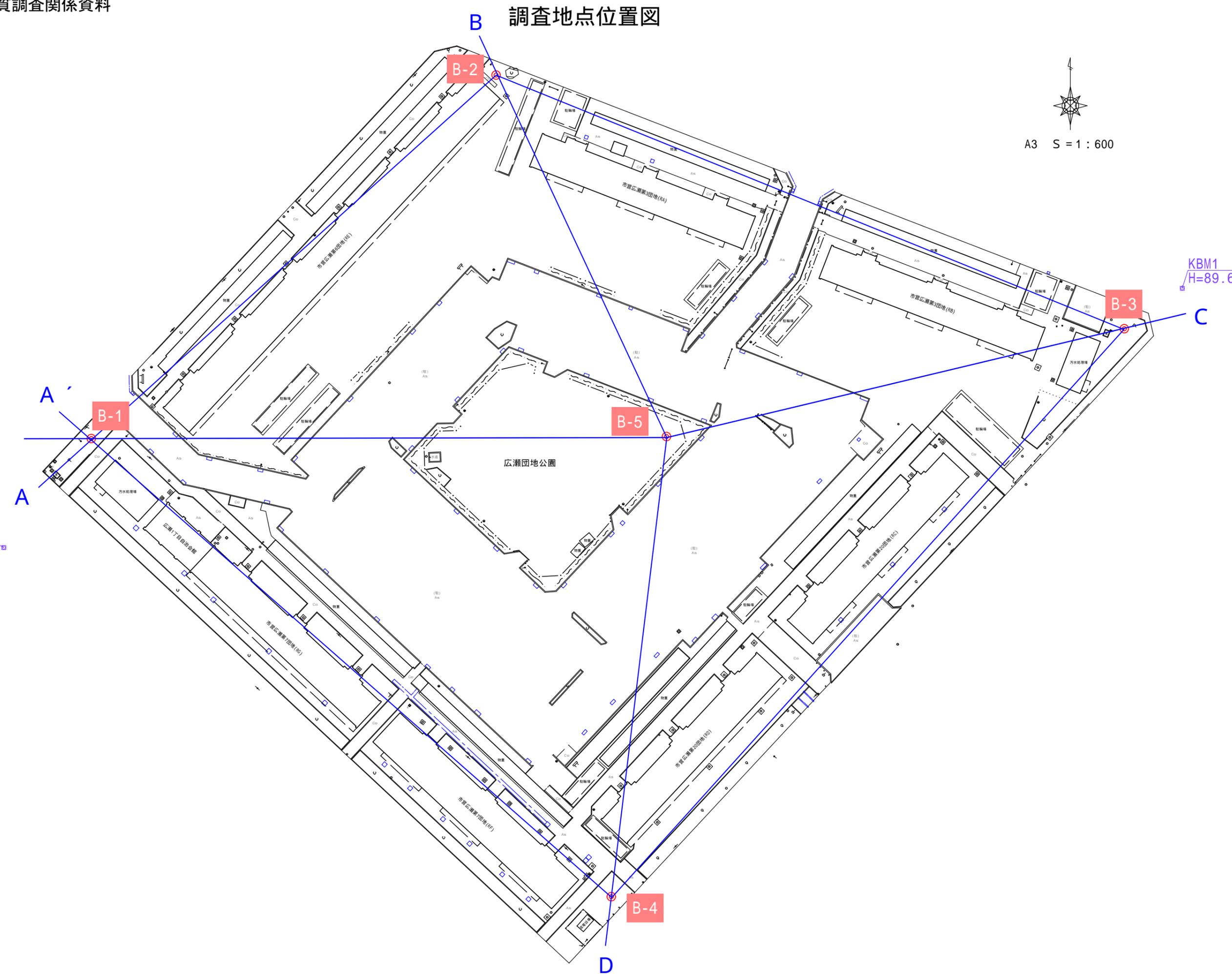


B 調査地点位置図

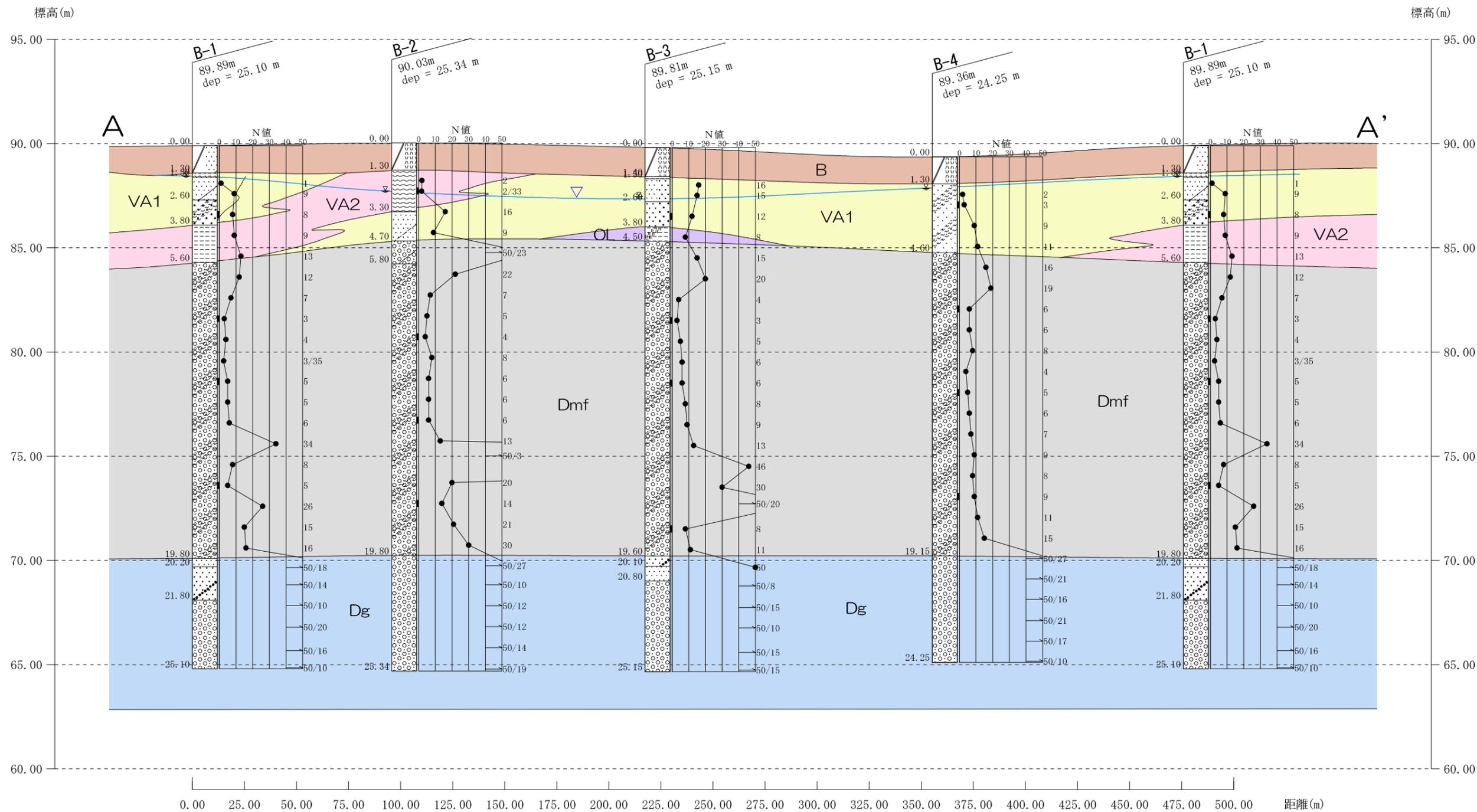


KBM2
H=89.751m

KBM1
H=89.621m



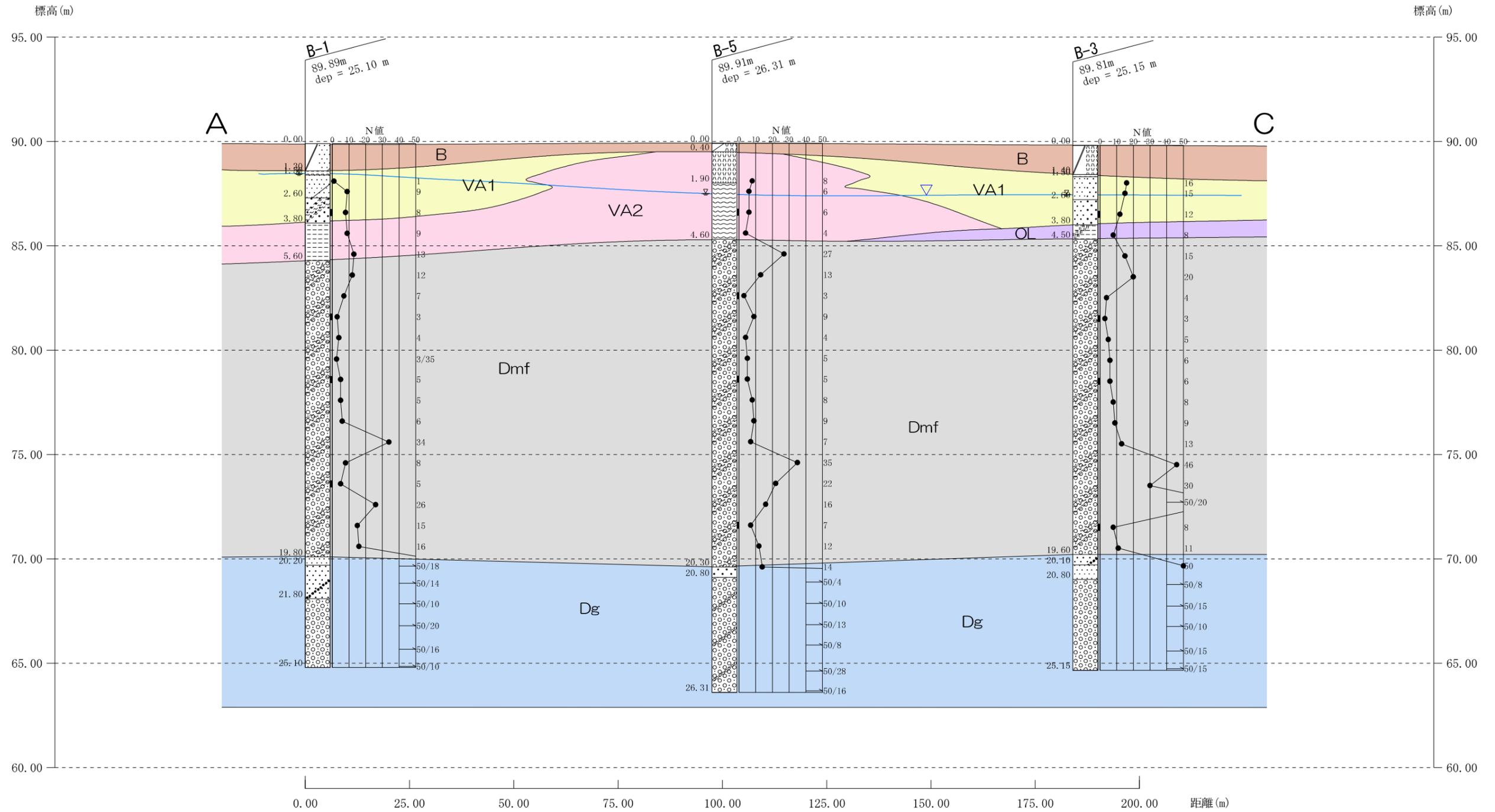
展開地層想定断面図 (V=1:200, H=1:2,000)



時代	地層名	記号	設計N値	単位体積重量 [※] γ t(kN/m ³)		粘着力 c(kN/m ²)	内部摩擦角 ϕ (°)	変形係数 [※] E ₀ (MN/m ²)	許容鉛直支持力度 q _a (kN/m ²)	
				湿潤単位体積重量	飽和単位体積重量					
新生代 第四紀	沖積世 (完新世)	埋土	B	-	14	15	10	0	-	50
	洪積世 (更新世)	火山灰質シルト層1	VA1	7	16	17	0	33	4.9	50
		火山灰質シルト層2	VA2	5	14	15	31	0	3.5	50
		有機質粘性土	OL	8	9	10	50	0	5.6	50
		前橋泥流堆積物	Dmf	7	18	19	0	33	4.9	100
	前橋砂礫層	Dg	50	20	21	0	40	35.0	600	

※飽和単位体積重量(地下水位以深)は、湿潤単位体積重量(地下水位以浅)に1プラスした値
 ※変形係数E₀は、係数 $\alpha=4$ (常時・暴風)を考慮していない

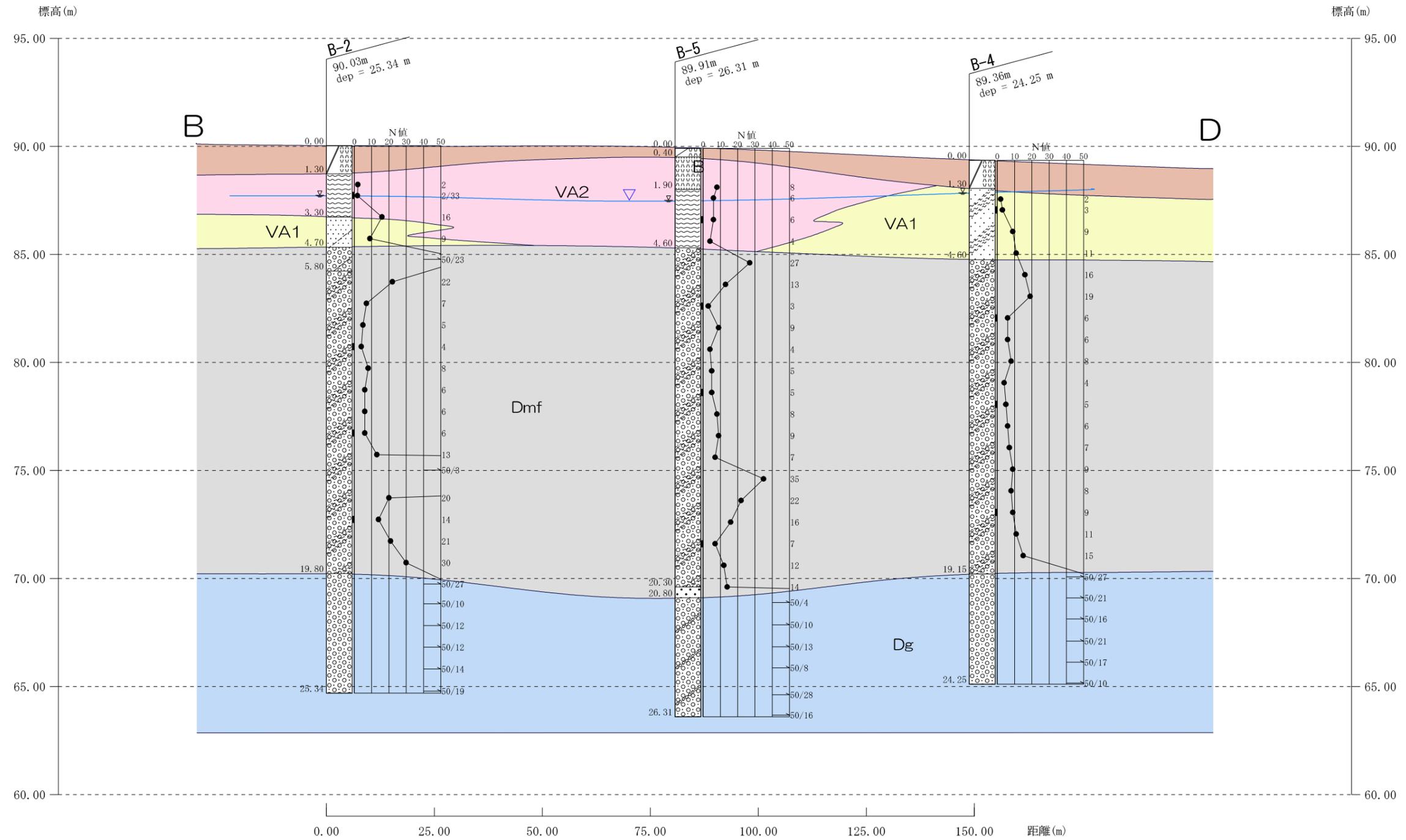
地層想定断面図 (B-1・B-5・B-3) (V=1:200, H=1:1,000)



時代	地層名	記号	設計N値	単位体積重量 [*]		粘着力 c(kN/m ²)	内部摩擦角 φ (°)	変形係数 [*] E ₀ (MN/m ²)	許容鉛直 支持力度 q _a (kN/m ²)	
				湿潤単位体積重量	飽和単位体積重量					
新生代 第四紀	沖積世 (完新世)	埋土	B	-	14	15	10	0	-	50
	洪積世 (更新世)	火山灰質シルト層1	VA1	7	16	17	0	33	4.9	50
		火山灰質シルト層2	VA2	5	14	15	31	0	3.5	50
		有機質粘性土	OL	8	9	10	50	0	5.6	50
		前橋泥流堆積物	Dmf	7	18	19	0	33	4.9	100
		前橋砂礫層	Dg	50	20	21	0	40	35.0	600

^{*}飽和単位体積重量(地下水位以深)は、湿潤単位体積重量(地下水位以浅)に1プラスした値
^{*}変形係数E₀は、係数α=4(常時・暴風)を考慮していない

地層想定断面図 (B-2・B-5・B-4) (V=1:200, H=1:1,000)



時代	地層名	記号	設計N値	単位体積重量 ^{**} γ _t (kN/m ³)		粘着力 c(kN/m ²)	内部摩擦角 φ(°)	変形係数 ^{**} E ₀ (MN/m ²)	許容鉛直支持力度 q _a (kN/m ²)	
				湿潤単位体積重量	飽和単位体積重量					
新生代 第四紀	沖積世 (完新世)	埋土	B	-	14	15	10	0	-	50
	洪積世 (更新世)	火山灰質シルト層1	VA1	7	16	17	0	33	4.9	50
		火山灰質シルト層2	VA2	5	14	15	31	0	3.5	50
		有機質粘性土	OL	8	9	10	50	0	5.6	50
		前橋泥流堆積物	Dmf	7	18	19	0	33	4.9	100
	前橋砂礫層	Dg	50	20	21	0	40	35.0	600	

^{**}飽和単位体積重量(地下水位以深)は、湿潤単位体積重量(地下水位以浅)に1プラスした値
^{**}変形係数E₀は、係数α=4(常時・暴風)を考慮していない

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 広瀬第三・第六・第七・第二十団地地質調査業務

事業名 または 工事名 広瀬団地地質調査

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	B-5	調査位置	群馬県前橋市広瀬町一丁目16番1ほか			北緯	36° 21' 45.00"					
発注機関	群馬県前橋市			調査期間	2023年 10月 16日 ~ 2023年 10月 24日		東経	139° 06' 24.27"				
調査業者名	三陽技術コンサルタント株式会社 電話 027-243-6211		主任技師	茂木 敦 地質調査技師 登録番号: 第08543号	現場代理人	奥原茂弘 地質調査技師 登録番号: 第18844号	コピ定者	奥原茂弘 地質調査技師 登録番号: 第18844号	ボーリング責任者	平井 拓 地質調査技師 登録番号: 第24219号		
孔口標高	T. P. 89.91m	角	180° 上下 90° 0°		方位	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南		地盤勾配	水平0° 鉛直 90° 0°		使用機種	試錐機 YBM-05
総削孔長	26.00m	ポンプ	カノーV-6		エンジン	ヤンマーNFD-10M						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記号	標準貫入試験	試料採取	室内位置試験	削孔月日
1	89.51	0.40	表土(ローム)	ローム	(VL)	黒/黄褐		rc1	沖積世	地下埋設物確認のため1.5mまで試験。含水比の低いローム質の粘性土で小礫を混入する。				
2	88.01	1.90		ローム	(VL)	黒/黄褐		rc4		全体に含水比の低い粘性弱のローム。地表~0.7mの間は全体に有機物が進み黒色を呈する。0.7~1.9mの間は黄褐色となり所々に軽石を混じる。				
3				火山灰質粘性土	(VL)	淡褐灰/淡灰		rc4		含水比高~中位で粘性中位~強の粘性土層。全体に細砂を混じり所々に軽石を混じる。3.80~4.00mの間、腐植物の混入有。水中堆積物層。				
4	85.31	4.60												
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20	69.61	20.30												
21	69.11	20.80		粗砂	(S)	暗灰		rd3	洪積世	含水比の高い粒径均一の火山起源の粗砂。				
22														
23														
24														
25														
26	63.60	26.31		玉石混じり砂礫	(GS)	暗灰		rd5		前橋砂礫層に相当する。φ2~40mmの亜円礫・亜角礫とマトリックスの砂からなる。コア長50~100mm(φ150~300mm)の玉石混入多い。礫種は硬質な安山岩。全体に密実。23m付近で多量の掘削泥水の逸水が発生。25.3~25.7mの間に均一な細砂層を挟む。全体に掘削泥水の逸水が見られる。孔壁の崩壊が激しいため、20mまでケーシング挿入。				